

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 松竹系 6月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『義経千本桜 碓知盛 渡海屋・大物浦・時鳥花有里』	○			
	『義経千本桜 いがみの権太 木の実・小金吾討死・すし屋』	○		○	○
	『義経千本桜 狐忠信 道行初音旅・川連法眼館』	○			
新橋演舞場	『ヒミツの仲居と曲者たち』	○	○	○	○
シアターコクーン	『四谷怪談』	○		○	○
三越劇場 (日本橋)	『深川の鈴』	○	○	○	○
	『国定忠治』	○	○		
	『銀座復興』	○			
京都劇場	『坂東玉三郎がいざなう鼓童の世界』				○
松竹座 (大阪)	『七変化 ねずみ小僧捕物帳』	○		○	○
博多座	『君が代松竹梅』				
	『毛抜』	○			
	『一谷嫩軍記 熊谷陣屋』	○			
	『身替座禅』	○			
	『双蝶々曲輪日記 引窓』	○		○	○
	『五代目中村雀右衛門襲名披露 口上』				
	『本朝廿四孝 十種香』	○			
	『女伊達』				

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

赤坂RED/THEATER	5月	『ミュージカル アップル・ツリー』プログラム
恵比寿エコー劇場	5月	テアトルエコー『淑女はここにいる』プログラム、台本
吉祥寺シアター	6月	青年団『ニッポン・サポート・センター』プログラム、台本
紀伊國屋サザンシアター	6月	文学座『何かいけないことをしましたでしょうか?と、いう私たちのハナシ。』プログラム、台本
		劇団民藝『炭鉱の絵描きたち』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	6月	ラッパ屋『筋書ナシコ』プログラム
国立劇場小劇場	5月	『文楽公演』プログラム、床本
		『文楽鑑賞教室』プログラム
		『雅楽公演 管絃』プログラム
国立劇場大劇場	5月	前進座『東海道四谷怪談』プログラム、台本
	6月	『新血屋敷月雨暈 魚屋宗五郎』プログラム
座・高円寺1	5月	劇団桃歌309『風が吹いた、帰ろう』プログラム

(新着資料案内 他社演劇公演資料 続き)

座・高円寺1	6月	いわてアートサポートセンター『残花 1945さくら隊園井恵子』プログラム
ザ・スズナリ	6月	流山児★事務所『代代孫孫』プログラム
サンモールスタジオ	5月	あやめ十八番『江戸系諏訪御寮』プログラム
シアタークリエ	6月	『RADIANT BABYキース・ヘリングの生涯』プログラム
シアターコクーン	5月	『8月の家族たち』プログラム
シアター1010	6月	『新版喜劇 極楽町一丁目 嫁姑千年戦争』プログラム
シアター風姿花伝	6月	エンテナPLAY UNION『ああ、六月の雨』プログラム
シアタートラム	5月	イキウメ『太陽』プログラム
下北沢シアター711	5月	大森カンパニープロデュース『更地12明日に向かって笑え。』プログラム
	6月	オフィスコットーネ『埒もなく汚れなく』プログラム
春秋座	5月	Team申『男たちの棲家』プログラム
新宿眼科画廊地下	6月	はらぺこペンギン『チェンジ・ザ・ダイアリー』プログラム
すみだパークスタジオ倉	5月	劇団め組『あしたのジョー』プログラム
青年座劇場	6月	劇団青年座『天一坊十六番』プログラム、台本
世田谷パブリックシアター	6月	『マクベス』プログラム
中日劇場	5月	『ゆうれい長屋は大騒ぎ』『鳥羽一郎オンステージ』プログラム 『第四回中日文楽』プログラム
帝国劇場	5月	『天使にラブ・ソングを シスター・アクト』プログラム
東京芸術劇場プレイハウス	6月	ロベール・ルパージュ『887』プログラム
東京芸術劇場シアターイースト	5月	劇団道学先生『丸茂芸能社の落日』プログラム
博品館劇場	5月	NLT『しあわせの雨傘』プログラム OSK日本歌劇団『紅に燃ゆる 真田幸村紅蓮の奏乱』プログラム
	6月	『歌劇 明治東京恋伽 朧月の黒き猫』プログラム
パルコ劇場	5月	『ポクの穴、彼の穴』プログラム
明治座	6月	『コロッケ特別公演』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『Confetti』2016年JULY	『演劇界』2016年8月号
『Confettiかわら本』2016年6月号	『喝采』2016年10月
『DRAMAかながわ』2016年(別冊5号)	『京都芸術劇場ニュースレター』2016年4-7月号
『SANZUI』Vol. 9, Vol. 10	『芸劇BUZZ』2016年7月-8月-9月号
『SePT倶楽部 information』	『国立演芸場公演ガイド』平成28年7月号
2016年5月号, 6月号	『大向う』平成28年7月号, 7月号増刊号
『the座』2016年88号	『長唄』119号
『あぜくら』2016年6月号	『伝統文化新聞』2016年(121号)
『げき』2016年5月16号	『日本芸術文化振興会ニュース』平成28年7月号
『シアターガイド』2016年8月号	『日本照明家協会誌』2016年6月号
『テアトロ』2016年6月, 7月号	『悲劇喜劇』2016年7月号
『ひろば』2016年138号	『文楽通信かわら版』27号
『ラ・アルプ』2016年7月号	『邦楽の友』平成28年7月号

■ 映画雑誌 ■

『FLIX』2016年8月号	『ドラマ』2016年7月号
『SCREEN』2016年8月号	『ピクトアップ』2016年8月号
『TVガイド』2014年12/5号~2015年5/8号, 2015年5/22号~2015年8/28号	『ムービー・スター』2016年8月号
『キネマ旬報』2016年7月上旬号, 7月下旬号	『映画テレビ技術』2016年7月号
『ザ・テレビジョン』2014年12/5号~2015年9/4号	『映画秘宝』2016年7月号, 8月号
『シナリオ』2016年8月号	『映画論叢』2016年(42号)
『シナリオ教室』2016年7月号	『衛星劇場プログラムガイド』2016年7月号
	『日経エンタテインメント!』2016年7月号

(新着資料案内 続き)

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『クリーピー 偽りの隣人』	○	○	○		○
『シネマ歌舞伎 歌舞伎NEXT 阿弋流為〈アテルイ〉』	○		○		
『嫌な女』	○	○	○		○
『ホーンテッド・キャンパス』	○	○	○		

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

『疑惑のチャンピオン』 『セトウツミ』
 『シング・ストリート 未来へのうた』 『死霊館 エンフィールド事件』

≫≫ 新規登録資料案内 新しく登録した資料をご案内いたします

■ 書籍 ■

『検閲の帝国 EMPIRE of CENSORSHIP 文化の統制と再生産』 紅野謙介[等] (編) 新曜社
 『山村流宗家所蔵上方浮世絵図録』 北川博子+澤井浩一+山村郁子 (編) 山村友五郎+山村会 (私家版)
 『古典の男たち 伝統芸能の名人16人のロングインタビュー』 マガジンハウス
 『THEATRE YEAR-BOOK 2015』 国際演劇協会日本センター (ITI JAPANESE CENTRE)
 『演劇年鑑 2015』 日本演劇協会 (編) 日本演劇協会
 『梅田芸術劇場10年のあゆみ』 梅田芸術劇場
 『空間の祝杯 七ツ寺共同スタジオとその同時代史』 七ツ寺演劇情報センター (発行)、あるむ (発売)
 『空間の祝杯 I I 連動する表現活動の軌跡』 七ツ寺共同スタジオ (発行)、あるむ (発売)
 『東日本大震災による劇場・ホール被災調査報告 劇場・ホールにおける防災・安全・技術 (その2) 資料集』 劇場演出空間技術協会 (編) 劇場演出空間技術協会
 『東日本大震災による劇場・ホール被災調査報告 劇場・ホールにおける防災・安全・技術 資料集』 劇場演出空間技術協会 (編) 劇場演出空間技術協会
 『ウエストエンド・ブロードウェイ劇場視察 研修報告書 2006年度』 日本演劇興行協会
 『ウエストエンド・ブロードウェイ劇場視察 研修報告書 2010年度』 日本演劇興行協会
 『ウエストエンド・ブロードウェイ劇場視察 研修報告書 2011年度』 日本演劇興行協会
 『ウエストエンド・ブロードウェイ劇場視察 研修報告書 2012年度』 日本演劇興行協会
 『ウエストエンド・ブロードウェイ劇場視察 研修報告書 2013年度』 日本演劇興行協会
 『ウエストエンド・ブロードウェイ劇場視察 研修報告書 2014年度』 日本演劇興行協会
 『アラブ・イスラム世界の現代戯曲 紛争地域から生まれた演劇その5』 国際演劇協会日本センター
 『私たちは戦争、暴力、支配を超えられるか? 紛争地域から生まれた演劇その6』 国際演劇協会日本センター
 『優秀新人戯曲集 2016』 日本劇作家協会 (編) ブロンズ新社
 『平成元年度第一回 脚本募集脚本集』 日本演劇興行協会事務局 (編) 日本演劇興行協会事務局
 『平成三年度第二回 脚本募集脚本集』 日本演劇興行協会事務局 (編) 日本演劇興行協会事務局
 『平成五年度第三回 脚本募集脚本集』 日本演劇興行協会事務局 (編) 日本演劇興行協会事務局
 『平成十年度第四回 脚本募集脚本集』 日本演劇興行協会事務局 (編) 日本演劇興行協会事務局
 『平成二十六年度第七回 脚本募集脚本集』 日本演劇興行協会事務局 (編) 日本演劇興行協会事務局

資料をご寄贈くださった方々（敬称略・順不同／2016年4月～5月）

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、劇団青年座、国立劇場、キネマ旬報社、東京都江戸東京博物館、無声映画鑑賞会、劇団民藝、株式会社日本舞踊社、関西・歌舞伎を愛する会、立命館大学アート・リサーチセンター、劇団四季、日本映画テレビプロデューサー協会、演劇出版社、シアタークリエ、新国立劇場情報センター、無名塾、パルコ劇場、劇団銅鑼、俳優座劇場、博物館明治村、人形劇団プーク、加藤健一事務所、一般社団法人日本民間放送連盟、デアゴスティーニ・ジャパン、文学座、大場潤一、株式会社カモミール社テアトロ編集部、伝統文化新聞、ミュージカル座、日本劇団協議会、公益社団法人 国際演劇協会、劇団東演、世田谷文学館、日本大学芸術学部演劇学科、フィルムセンター、ロングランプランニング株式会社、公益社団法人日本照明家協会、劇団ワンツークラス、明治座、博多座、(株)近代映画社、歌舞伎学会、K A A T 神奈川芸術劇場、三越劇場、常磐津節保存会、石神洋子、銀座百店会、おもだか会、関西テレビ放送、シナリオ・センター、岩波ホール、邦楽の友社、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、前進座、銀座 博品館劇場、日本ウニマ（国際人形劇連盟）、日本芸能実演家団体協議会 実演家著作隣接権センター、Pカンパニー、日本劇作家協会、早稲田大学演劇博物館、有限会社・四面楚歌、山本一郎、玉川大学教育博物館、秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場、企業メセナ協議会、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、劇団俳優座、日本近代文学館、帝国劇場、佐相勉、日本映画撮影監督協会、早稲田大学演劇映像学会、公益社団法人日本演劇興行協会、後藤康行、東映株式会社

どうもありがとうございました

● 突然やってくる地震や災害、その時のために。想像力を——避難訓練に参加●

先日の熊本の大地震や函館での震度6の地震、30年以内に関東でも大地震が起これと言われている昨今、いつどこで私たちは災害に見舞われてしまうかわからない。そんな不測の事態が起きた時、自分たちの命を守るには、他でもない自分たちなのだ、こうした避難訓練をすると、その思いを強く実感する。

6月15日(水)に、当館が在館しているビル全体での避難訓練が開催された。図書館からは、伊藤と酒井の2人が参加。警報音と「ビルの3階給湯室で火災発生！」というアナウンスで、訓練はスタート。館内放送に従って、避難階段を通過して1階へと移動を開始する。避難階段の扉を開けると、上の階からの人たちも続々と降りてきていた。昨年6月に参加した避難訓練の際は、テナントの入れ替わりの時期だったので少人数だったが、今回は1階のフロアが訓練参加者でいっぱいになっていた。

避難を終えたテナントごとに、点呼と報告をし、全体の避難完了を待つ。避難訓練終了後は、消火器の操作体験と、起震車体験の二手に分かれてのプログラムだったので、今回は起震車を体験してみることに。



起震車では震度7の揺れを体験

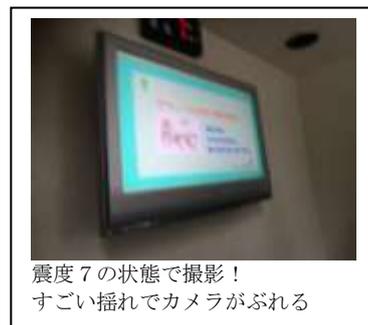
起震車の中には、テーブルと4脚のイスがセットされ、4人毎に中へ乗り込む。車内のモニターには、現在の震度を表す文字が映し出されていた。揺れが始まると、震度はどんどん上がっていき、ついに震度7!!イスに座っている身体が、ポンポン上に跳ねる感じが、まるで遊園地のアトラクションのよう。起震車という、家具もすべてが固定され、安全が保障されている設備の中では、さほど恐怖は感じないが、では、ひとたび実際の地震だったらどうだろう、と想像してみる。固定されてない家具は倒れたり、移動したり、場合によっては飛んでくるかもしれない。身の安全を図ろうとして潜った机の下でも、その机ごと別の方向に移動してしまうかも。

大きな書棚に囲まれているこの図書館も、震度7、8とかにはどうなるのだろう。近頃各地で大きな地震が続いているので、当館では、帰りがけに書庫の電動書架の隙間を等間隔に開けて、大きな本が上から落ちてこないようにする対策も始めた。同じ震度7でも、安全な起震車と実際に感じる恐怖の違いは計り知れない。

でも、こうして、今回起震車に乗ることで、本来ならば災害当日でしか経験しない震度7という大きな安全な場所で身を以て感じられることの大切さと、この体験をしたからこそできる災害への対策を、想像力を働かせながら行っていくことが大事なのだということを改めて感じた訓練だった。



続々と集まる避難者でフロアはいっぱい



震度7の状態で撮影！
すごい揺れでカメラがぶれる

さわやか信金主催<第12回ビジネスフェア>社会科見学講演とWebTV

開催日時：平成 28 年 6 月 7 日／場所：大田区産業プラザ(PIO)

飯塚美砂

JR 蒲田駅の発車メロディはあの軽快な『蒲田行進曲』。しかし「なぜ蒲田駅の音楽がほかの駅と違うの？」「あの曲はなに？」と首をかしげるお子さんが多いので、蒲田に撮影所があった話をしてもらえないだろうかという依頼をいただきました。講演などで図書館業務以外のお話をする事はしていませんでしたが、松竹キネマ蒲田撮影所の存在が忘れられてしまうというのは、残念なことです。幸い、松竹大谷図書館には撮影所時代の資料が残されており、それらをご紹介するよい機会と思い、6月7日、大田区産業プラザ(PIO)で開かれた第12回ビジネスフェア・第7回さわやか信用金庫物産展で、社会貢献活動として行われた連動企画・大田区立南蒲小学校社会科見学でお話をさせていただきました。また、会場で松竹キネマ蒲田撮影所に関する資料の展示と、会場内に設けられたサテライトスタジオでのWebテレビの公開収録に出演いたしました。

南蒲小学校社会科見学では『日本映画を育んだ「松竹キネマ蒲田撮影所」』と題して日本映画が発達した大正から昭和期に、重要な意味を持っていた蒲田撮影所のことを約15分でお話をさせていただきました。参加して下さったのは、小学校3年生から5年生の約200人です。松竹大谷図書館が所蔵する当時の撮影所の写真やイラスト、蒲田で撮影された映画の資料などを中心に作成したスライドを見ていただきながら、なぜ蒲田に撮影所が出来たのか、どんな映画を撮影していたのか、なぜ大船に移転してしまったのかなどをお話ししました。8歳から10歳の生徒さん達に、どれだけお伝えできるか不安でしたが、そのあとの質問コーナーでは「キネマって、映画のこと？」「蒲田行進曲が主題歌になっていた映画ってどんな映画？」など、お話しした内容に沿った質問もでて、JR蒲田駅のメロディの由来と蒲田に松竹の撮影所があったという事は、しっかりみなさんの心に残ってくれたようでした。



クイズコーナーで勢いよく手を上げる南蒲小学校の生徒たち



当館専用ブースにて展示を見て下さっている方々に当館スタッフが説明をしています

大田区産業プラザ(PIO)1階で開かれた第12回ビジネスフェア・第7回さわやか信用金庫物産展の会場では、松竹キネマ蒲田撮影所に関する資料の展示ブースを作ってください、この日のために作成した松竹キネマ蒲田撮影所関連の年表と、当時の映画の台本やスチール写真、クラウドファンディングでのご支援の成果として修復した『蒲田週報』や芝居番付などを展示しました。次々と観光バスツアーがお隣の物産展を訪れる中、蒲田に撮影所があったことを初めて知ったという方や、町の通りの名前にその名残があると教えてください方、ご家族が蒲田撮影所につとめていたとおっしゃる方や実際に撮影所を知っているという方まで、多くの方々が足を止めて熱心に見てくださり、用意した松竹大谷図書館案内のチラシ200枚もすべてなくなりました。

同時に会場中央に設置されたスタジオでも15分間、スライドを使用しながら蒲田撮影所と蒲田のかかわりや松竹大谷図書館の事をインタビューに答えるかたちでお話しし、Web配信していただきました。現在、下記のURLからアーカイブとして視聴していただけますのでご覧になってみてください。(実は、打ち合わせしていたものと本番では、質問の内容がいきなり変わって、かなり狼狽えました。)

松竹大谷図書館の資料を通じて、かつて日本のハリウッドと言われた松竹キネマ蒲田撮影所の存在を知っていただき、より一層、蒲田という土地と松竹映画に誇りと愛着を持っていただくお手伝いができたらうれしいと思っています。



WebTVの公開収録中。
まるで本物のTV局のスタジオのようでした

<http://business-fair.com/top.html#liveLink>

放送スケジュール

11:05～ 日本映画を育んだ松竹キネマ蒲田撮影所

「渥美清-没後20年-」展

展示期間：2016年7月1日～8月15日／於 閲覧室

本年は、1996年8月4日に68歳で亡くなった渥美清の没後20年にあたります。

1928年3月10日、東京下谷区車坂町に生まれた渥美清は、若い頃から様々な劇場を渡り歩き、1953年には浅草フランス座に入座し、コメディアンとして頭角をあらわしていきます。テレビにも進出し、お茶の間の人気者となり、1963年に映画『拝啓天皇陛下様』で主演して、好評を得ました。そして1969年に国民的シリーズとなる、映画『男はつらいよ』第1作に主演。その後の国民的人気は誰もが知るところです。

この『男はつらいよ』シリーズが大変有名なため、“寅さん”のイメージが強い渥美清ですが、“寅さん”以外にも、ミステリーや社会派ドラマ、時代劇など様々な作品に出演し、その魅力をスクリーンに残しています。

今回は、『男はつらいよ』シリーズ以外の映画作品の資料を展示しました。また、映画の世界に身をおいてからも舞台に出演しており、この舞台に関する資料も取り上げております。国民栄誉賞も受賞し、没後20年を経てもなお、万人に愛され続ける名優の多彩な表情にご注目下さい。



そして、当館の閲覧室にいらしたことがある方でしたらお分かりかと思いますが、当館の閲覧室の展示ケースは小さいため、展示する資料に限りが出てしまいます。今回はこのような、展示できなかった資料を写真でご紹介します。

写真の資料は、左から『喜劇・急行列車』（1967年東映）、『喜劇・団体列車』（1967年東映）、『喜劇・初詣列車』（1968年東映）の“喜劇・列車”シリーズの台本です。渥美清が列車や駅を舞台に繰り広げる人情喜劇は人気シリーズとなって計3作が作られました。“寅さん”以前の渥美清のコミカルな演技を見ることができます。こちらの資料は展示していませんが、カウンターでご請求いただければ、閲覧室でご覧いただけますので、お気軽にお声がけ下さい。

展示資料一覧

《展示ケース上段》 ●スチール写真●

『漫画横丁 アトミックのおぼん 女親分対決の巻』1961年東京映画

監督：佐伯幸三／脚本：柳沢類寿／原作：杉浦幸雄／共演：水谷良重(水谷八重子-2世)、有島一郎、中島そのみ
東京・神田を根城にするアトミック組の女親分・おぼんが主役の喜劇映画の2作目。渥美はおぼんの子分役。

『伴淳・森繁のおったまげ村物語』1961年松竹

監督・脚本：堀内真直／脚本：馬場当／原作：須藤東起／共演：伴淳三郎、森繁久彌、高千穂ひづる
ペテン師の女に振り回される二人の男の喜劇。渥美は伴淳のライバル役を演じている。

『無宿人別帳』1963年松竹

監督：井上和男／脚本：小国英雄／原作：松本清張／共演：佐田啓二、岡田茉莉子、田村高廣
佐渡金山に流された無宿人達と役人の闘いを描いた時代劇。渥美は金鉱内に生埋めにされる無宿人を演じた。

『つむじ風』1963年松竹

監督：中村登／脚本：清水俊男、宮崎守／原作：梅崎春生／共演：加賀まりこ、川津祐介、伴淳三郎
主演第2作。徳川の末孫を騙って金を騙し取ろうとする抜け目ない男に扮したコメディ。

『拝啓天皇陛下様』1963年松竹

監督・脚本：野村芳太郎／脚本：多賀祥介／原作：棟田博／共演：長門裕之、藤山寛美、中村メイ子
渥美清の代表作であり出世作。軍隊を天国だと思っている男が繰り広げる、哀感溢れる人情喜劇。

『風来忍法帖』1965年宝塚映画

監督：川崎徹広／脚本：関沢新一／原作：山田風太郎／共演：佐藤允、佐々十郎、中川ゆき
戦国時代の香具師三人組の大活躍を描く。渥美は槍と女に自信のある香具師の一人を演じた。1968年には続編も作られた。

『ブワナ・トシの歌』1965年東京映画+昭和映画

監督・脚色：羽仁進／脚本：清水邦夫／原作：片寄俊彦／共演：下元勉、ハミシ・サレヘ、ビビ・アグネス
アフリカで半年間の長期ロケを敢行した作品。住居施設を作るために単身アフリカに渡って奮闘する男の物語。

『運が良けりゃ』1966年松竹

監督+脚本:山田洋次/脚本:山内久/共演:八木肇,犬塚弘,倍賞千恵子

八木肇主演作。江戸の長屋を舞台にした人情喜劇。渥美は火葬場の男を怪演し、強烈な印象を残した。

『かあちゃんと11人の子ども』1966年松竹

監督:五所平之助/脚本:堀江英雄/原作:吉田とら/共演:左幸子,倍賞千恵子,竹脇無我

戦中戦後、西伊豆で11人の子どもを育てた主婦・とらの自伝を、左幸子主演で映画化。渥美はとらの夫を演じた。

『白昼堂々』1968年松竹

監督・脚本:野村芳太郎/脚本:吉田剛/原作:結城昌治/共演:倍賞千恵子,藤岡琢也,有島一郎

デパートに狙いを定め、全国規模で暗躍するスリ集団のボスに渥美が扮したコメディ。

『祇園祭』1968年日本映画復興協会

監督:山内鉄也/脚本:鈴木尚之+清水邦夫/原作:西口克己/共演:中村錦之助-1世,三船敏郎,岩下志麻

京都府制百年記念事業映画。室町末期を舞台に“祇園祭”を復興させようと奮闘する青年の姿を描いた大作。渥美は町衆の伊平役で出演。

『スクラップ集団』1968年松竹

監督:田坂具隆/脚本:鈴木尚之/原作:野坂昭如/共演:露口茂,小沢昭一,三木のり平

社会から取り残された4人の男たちがスクラップ屋を始め成功するが、やがて転落していく悲喜劇。

『喜劇 女は度胸』1969年松竹

監督・脚本:森崎東/脚本:大西信行/原案:山田洋次/共演:倍賞美津子,沖山秀子,花澤徳衛

森崎東監督デビュー作のラブコメディ。渥美は純朴な青年の破天荒な兄を演じた。

『幸福の黄色いハンカチ』1977年松竹

監督・脚本:山田洋次/脚本:朝間義隆/原作:ピート・ハミル/共演:高倉健,倍賞千恵子,武田鉄矢

“寅さん”以後、渥美はゲストとして出演し、印象を残す役が多くなっていく。この映画では警察の係長役で出演。

『キネマの天地』1986年松竹

監督・脚本:山田洋次/脚本:井上ひさし,山田太一,朝間義隆/共演:中井貴一,有森也実,倍賞千恵子

昭和8,9年の蒲田撮影所を舞台にした、松竹大船撮影所50周年記念作品。渥美は、売り子から女優へと成長していく主人公の父を演じた。

《展示ケース下段》

舞台『大村崑 佐々十郎 喜劇祭 特別参加 渥美清』1965年12月明治座上演

上演された4作品のうち、渥美清は昼の部『恋や恋物語』と夜の部『海猫とペテン師』で主演している。

●プログラム(グラビア頁)● 左頁:『海猫とペテン師』/右頁:『恋や恋物語』

●舞台写真●左:『海猫とペテン師』/右:『恋や恋物語』

『あいつばかりが何故もてる』1962年松竹

監督:酒井欣也/脚本:松木ひろし,山根優一郎/共演:倍賞千恵子,田中春男,松原緑郎

初主演作品。渥美が歌った同タイトルの歌から企画された。銀座を舞台に、渥美扮するスリが倍賞千恵子演じる女子大生の危機を助けるために活躍する明朗喜劇。

●スクラップブック● 初主演作品の製作を伝える新聞記事。 ●スチール写真●

『あゝ声なき友』1972年渥美プロ+松竹

監督:今井正/脚本:鈴木尚之/原作:有馬頼義/共演:森次浩司,倍賞千恵子,北村和夫

渥美清が自主製作プロを設立し映画化した社会派ドラマ。戦友12名の遺書を渡すため全国を旅する男の物語。

●シナリオ● ●スチール写真●

『友情』1975年松竹

監督・脚本:宮崎晃/共演:中村勘九郎-5世(中村勘三郎-18世),松坂慶子,米倉斉加年

松竹創立80周年記念作品。中村勘九郎演じる苦学生が、バイト先で出会った中年の男との友情を深めていく、人情ドラマ。

●ロビーカード●当時映画館などに貼られていた宣伝用カラー写真

『八つ墓村』1977年松竹

監督:野村芳太郎/脚本:橋本忍/原作:横溝正史/共演:萩原健一,小川真由美,山崎努

落武者の怨念に祟られた村で発生した連続殺人事件を描いたミステリー大作。渥美清が金田一耕助を演じ、独自の金田一像を作り上げている。

●プログラム● ●スチール写真●

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実に永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2016（平成28）年6月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアタース

どうもありがとうございます

■ 夏期特別整理休館のお知らせ

平成28年8月16日（火）より

8月29日（月）まで

資料整理のため休館いたします。
8月30日（火）より通常通り開館いたします。

■ 編集後記

▼今年も七夕に織姫と彦星の人形を事務所に飾りました。天の川の模様が描かれた、素敵で七夕のお菓子をいただきましたので、織姫と彦星の間に飾ってみました。7日は晴れたようですから、無事、天の川を渡って会うことができたのではないのでしょうか？



●利用案内 ●
開館時間
平日午前10時～午後5時
休館日
土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間
※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。

●交通案内 ●
東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

●入館料 無料
●閲覧 館内閲覧のみ